東海・北陸

富山県	西嶋鈴子さん	ウォークラリー	28
	末永正志さん	剣道	29
福井県	上嶋啓芳さん	剣道	30
	阪口健一さん	健康マージャン	31
岐阜県	髙橋照男さん	グラウンド・ゴルフ	32
静岡県	川窪健一さん	弓道	33
	杉山典克さん	ダンススポーツ	34
愛知県	奥村昌彦さん	サッカー	35
三重県	林　眞市さん	将棋	36
	山﨑八重子さん	太極拳	37

ウォークラリー　「ちんぐるま」チーム

西嶋鈴子（にしじますずこ）さん　73歳　●参加歴：４回目

競技と観光で歩いた武家屋敷通り

「今、テレビ見てる？　角館から中継してるよ」と、一緒にウォークラリーに参加した仲間からの電話。慌ててテレビをつけると、私たちがクイズで右往左往した武家屋敷通りが映っています。大会開催時は緑だったしだれ桜が鮮やかな紅葉になっており、長く続く黒の板塀をバックにとてもきれいでした。大会前から大雨情報やクマの出没情報など秋田のニュースに目がいきましたが、大会が終わってから２カ月が経った今も、秋田旅行の余韻を楽しんでいます。

ウォークラリーの競技開始に先立ち、学校の体育館で開会式がありましたが、角館市長の挨拶や、歓迎レセプションの間中雨と雷がひどく、こんな中で歩くのかと暗たんたる気持ちになりました。その後雨合羽を着て待機。ところがスタートしたら劇的にピタッと止んで、本当に印象的な出来事でした。

ウォークラリーは、歩いてクイズを解く競技。クイズ得点と時間得点の合計で競います。普通の地図ではなく、ばらばらのコマ図を見ながら、チェックポイントに向かい、問題やゲームに挑みます。ゴール時間は隠しタイムになっており、早くても遅くてもマイナス。足の速い人が有利でもなく、頭が良い人が有利でもなく、多分に運が影響するゲームで、そこがウォークラリーの楽しさでもあります。

角館には、古い町並み、民家がたくさんあって、ウォークラリーには最適でした。間違えて階段を２往復したのは応えましたが、競技中は真剣に取り組みました。

翌日はゆっくり観光して回りました。武家屋敷通りから１本裏通りに入った時、色とりどりの花々が目に飛び込んできました。花が少ない９月に何だろうと思って見ると、そこは「ダリア園」。大輪、中輪、小輪、ポンポンダリアみたいなもの、一つの花に色が混じっているものなど、初めてみるダリアの種類の多さに感心し、しばらくスマホ撮影に夢中になってしまいました。園芸植物の教室の生徒さんたちの作品だとか。ねんりんピックに合わせて栽培されたのかと嬉しく拝見しました。

２時間ほど普通に歩けたらOK、特別の練習もなしで参加できる気軽さに惹かれて競技を始め、15年ほど経ちます。70代と80代の５人のチームで、仲良く、力を出し合ってなんとか続けています。歩ける限り仲間と一緒にウォークラリーを楽しみたいと願っています。

歴史的な町並みを、仲間と楽しみながらウォークラリー。（右端）

競技で歩いた武家屋敷を、翌日再び観光で歩いた。（右から２人目）

剣 道　（監督兼選手）

末永正志（まつえただし）さん　62歳　● 参加歴：1回目

次回、我が郷土とやま大会に向けて

9月9日から第30回全国健康福祉祭あきた大会が開催され、私は剣道の監督兼選手ということで参加しました。

私は警察官を退職し、地元中学校の剣道コーチを委嘱されたところであり、「これまでの剣道鍛錬の成果を試してみたい。全国大会を目指す子どもたちの励みになりたい」との思いから春の予選会に参加しました。対戦は県内でも強豪選手ばかりでしたが、幸運なことに勝ち上がることができ、代表選手に選考されました。地元の子どもたちや保護者からの祝福も受け、一つの目的は達成したとの満足感がありました。

出発前の結団壮行会では、副知事から激励の言葉を賜り、幸運なことに私が、最後の「ガンバロー三唱」の音頭をとらせていただきました。自分自身も士気が上がりましたし、とてもいい思い出になりました。

秋田県での剣道会場は、県南部の由利本荘市。なんと、市長が剣道教士七段の「剣道の街」ということで、案内役の市職員の方々と大変盛り上がりました。剣道競技の開会式では、最高年齢の七十九歳の選手の方が表彰されました。背筋を伸ばし凛とした姿勢で堂々と登壇される姿がひと際印象的で、改めて生涯スポーツの剣道の素晴らしさを感じました。

予選リーグでは、強豪の岡山県・栃木県と対戦しました。いずれも僅差の惜敗で、決勝トーナメント戦には進出できませんでした。厳しい強化練習を積んできましたが、実戦の場でなかなか一本が取れず、全国の壁の厚さを痛感するとともに、翌年へのリベンジの闘志が湧いてきました。

夕食時には、大勢の県外の先生方と剣道談話で交流を深めることができ、これも全国大会ならではのいい思い出でした。その中で偶然にも、青年期に対戦した剣友と再会しました。一度、脳梗塞で倒れたものの、剣道を通じたリハビリで驚異的に回復し、今回の出場が叶ったそうで、主治医には、姿勢正しく、裸足でする剣道は、精神的にも肉体的にも充実し、無理なく続けていけば、治癒効果が期待できると言われたとか。ひたむきな旧友の姿に、自分の剣道を見直すいい機会になりました。

いよいよ今年は我が郷土富山県での開催です。「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」。今回のあきた大会での貴重な体験を生かし、今年のとやま大会を盛り上げ、私自身もキラキラと輝けることを目標に、大好きな剣道を健康で心豊かに、続けていきたいと思います。

快晴のもと、チーム一同で総合開会式の入場行進に臨む。（左端）

厳しい練習の成果を見せるべく奮闘。威勢良く面を打ち込む。

剣 道

上嶋啓芳（うえしまひろよし）さん　60歳　●参加歴：1回目

福井県剣道界を湧かせた３位入賞

第30回全国健康福祉祭あきた大会の剣道交流大会が9月10日・11日、由利本荘市総合体育館で開かれ、全国から67チームが参加、私たち福井県代表が３位に入賞できました。入賞は1999年、福井県で開催された第12回大会での福井県Ａの優勝、福井県Ｂの準優勝以来で、福井県剣道界にとっては久々の“快挙”でした。

10日は４チームによるリンク方式の予選リーグで、初戦の対宮崎県戦を３対１、２戦目の対相模原市戦を２対０で勝利。２勝したもののリンク方式なので、他の試合結果次第でしたが、リーグ１位で決勝トーナメントに進むことができました。予選リーグ突破を目指していただけに、全員「ホッ」と胸をなでおろしました。

11日の決勝トーナメント１回戦は強豪の三重県。全員慎重に試合を進め、２対１で勝ち、ベスト８を決めました。続く準々決勝の東京都Ｂ戦は、シーソーゲームになりながらも２対１で辛勝、18年ぶりの３位入賞が確定しました。準決勝の山口県は２年前に優勝した強豪。先鋒、次鋒と負け、中堅が引き分け。後がない副将が踏ん張り一本勝ち。大将が二本勝ちで代表戦という苦しい展開の中、大将は気力を振り絞り果敢に攻め続けましたが、時間切れで引き分け、２対１という僅差で惜敗しました。２日間で５試合という熟年には厳しい大会でしたが３位に入賞でき、心地よい疲労感と満足感で会場を後にしました。

４月の県内予選以降、全員揃って稽古できたのは８月の京都での「近府県練成会」のみでしたが、出場６度目の大将、３度目の副将、２度目の中堅というベテラン選手が、初出場の先鋒・次鋒が大会の雰囲気に呑まれないようにアドバイスし、良いチームに仕上げてくれたので、全国の強豪を相手に堂々と戦うことができました。

秋田県の競技役員、係員、ボランティアなどの関係者だけではなく、ホテルのスタッフ、バス運転手、お土産販売の方などの温かなおもてなしの心、あふれる笑顔が素晴らしく、清々しい気持ちで３日間を過ごせました。審判も公平な素晴らしいジャッジでした。このような全国大会に派遣していただいた感謝の気持ちと、少しは期待に応えられたかな、という満足感でいっぱいです。

今年はいよいよ「福井しあわせ元気国体・大会2018」が開催されます。福井県国体代表選手をはじめ、各大会福井県選手の今後の活躍をお祈りしております。

左から大将、副将、中堅３選手のアドバイスが生き３位入賞。（右端）

福井県剣道界久々の快挙達成を祝い、後日祝勝会を開催。（左から２人目）

健康マージャン　「恐竜ふくい」チーム

さかぐちけんいち
阪口健一さん　75歳　●参加歴：1回目

社会的理解が進み、女性参加者も増加

福井で健康マージャンが話題に上るようになったのは10数年前からである。マージャンはゲーム性が高く、高度な技量と知性が必要な競技である。ただ、私が若い頃は、賭博、イカサマと言った負のイメージが強く、世間から白い眼で見られていたように思う。「賭けない・飲まない・吸わない」の3ナイ条件を取り入れた健康マージャンは、その憲章に「人にやさしく自分に厳しく」との基本的理念を掲げている。この健康マージャンの提唱は、医学的に認知症予防効果があるとの知見が加わり、マージャンの負のイメージが払拭され、社会的に広く理解されるようになってきた。

ねんりんピック秋田2017は第30回大会だったが、マージャン競技の初参加は第20回からである。福井県のマージャン技量レベルは高く、優秀な成績を残している。

私が、福井いきいき健康マージャンの会「なごみ会」に所属して1年近くが経過した4月2日、福井県予選会が行われた。参加者120人中県代表4名（福井2名、武生1名、敦賀1名）が選出され、キャプテンを依頼された。大会までの5カ月間は、鯖江文化センター「いきいき健康マージャンの会」例会に月1回参加させてもらい、競技技量向上を目指し、かつメンバーの友好を深めた。

健康マージャン交流大会は、北秋田市鷹巣体育館を会場に、10日に団体戦、11日に個人戦が行われた。団体戦は、68チーム中31位。個人戦は68人中、3位、21位、32位、48位で、武生の樫尾直樹さんが銅メダルの快挙であった。宿舎は会場近くの伊勢堂岱温泉・縄文の湯で3泊した。室内競技であるが、選手4人が大会を無事に終え、キャプテンとして安堵を覚えた。

大会プログラムより、健康マージャン交流大会の参加選手について調べてみたところ、女性は全選手の17%の46人で、その内訳は政令都市20人、県代表26人であった。予選会の状況から推察すると、女性選手参加がある県と市では特別な配慮がされていると思われる。大会で配布された麻雀新聞によると、今年の大分国民文化祭では、健康マージャンが競技種目として採用決定とあった。福井県としても特別の施策を考える時期に来ているのではないかと考える。

ねんりんピック出場は、私の半世紀に及ぶマージャン歴の1つの区切りになった。今後はこれまで以上にボランティア活動に励みたい。

キャプテンとして、「恐竜ふくい」チームをまとめた。（右から2人目）

グラウンド・ゴルフ　「岐阜中濃」チーム

たかはしてるお
髙橋照男さん　74歳　●参加歴：1回目

秋田の皆さんの心遣いと歓待で、人の心を知る

「秋田からつながれ！つらなれ！長寿の輪」をテーマに開催されたねんりんピック秋田2017のグラウンド・ゴルフ大会に、岐阜県選手として参加してまいりました。

9月8日から12日まで4泊5日の行程でしたが、選手6名と、2020年の岐阜県でのねんりんピック開催を見据え、岐阜県グラウンド・ゴルフ協会の役員1名も同行され、地理が全くわからない私たちを引率していただき、力強く感じました。選手は男性3名、女性3名で編成され、出発まであまり言葉を交わしたことはなかったのですが、仲間として本当に楽しく5日間を過ごさせていただきました。

8日朝、岐阜県選手団は名古屋駅に集合し、東京経由で盛岡駅まで新幹線で移動し、その後バスにて仙北市のホテルへ移動しました。夜には岐阜県選手団の仲間と親睦を深めました。ただ、秋田では数日間地震が続き、その余震もあって、心配な日々を過ごしました。

仲間として親睦を深めた「岐阜中濃」チームのメンバー。（後列中央）

慣れない芝生のコースに苦戦したが、ホールインワン賞を獲得した。

9日には総合開会式が秋田県立中央公園県営陸上競技場で行われ、広大で緑豊かな素晴らしい会場に驚きました。岐阜県選手団として行進し、メインスタンド前では、マフラータオルを片手に持ち上げ岐阜県を力強くアピールしてまいりました。

10日、いよいよ試合が行われました。会場は、日本一のグラウンド・ゴルフ場と言われる大仙市の「秋田太田奥羽グラウンド・ゴルフ場」です。どのような会場かと期待していましたが、見たことがない広さの、芝生コース。しかも試合のスタートには全国的に有名な大曲花火も打ち上げられ、驚きの連続でした。1日目は交歓ゲーム第1・2ラウンドを行いました。芝生コースに経験がない私は芝の状態がなかなかつかめず、スコア23の平凡な記録しか残せませんでしたが、ホールインワンが1個入りました。

11日は、午前中交歓ゲーム第3ラウンドを行い、午後からは児童・生徒たちと交流ゲームを行いました。地元中学生男子2名と一緒にゲームを行い、ホールインワンも1個で、スコア20で終わりました。

12日、最終日です。秋田空港でねんりんピック秋田2017のスタッフの多数の見送りを受け、帰路につきました。大会を通じて、秋田の皆さんの心遣いと歓待は素晴らしかったです。

今回の経験を活かし、愛好者の仲間と楽しく、助け合いながら今後も精進したいと思います。

弓 道

かわくぼけんいち
川窪健一さん　68歳　●参加歴：2回目

呼吸を合わせ、チーム力で掴んだ優勝

ねんりんピックについて、知ってはいましたが「年寄りくさいな」と予選会を敬遠していました。ところが3年前、静岡県連の会長から「監督が行けなくなったので代わりに行かないか」とご指名いただいたのがとちぎ大会でした。初出場で監督を務め、成績は決勝2回戦で敗退でしたが、この大会で認識が一変しました。シニアが実に生き生きと輝いているではありませんか。的中するたびに拍手、実に温かい。そして2017年5月、今回は自ら予選会参加を決め、選手に選抜されました。7回出場の猛者から初出場の選手まで7人。偶然にも監督を除き全員が東部地区所属で、稽古を一緒にすることもある顔ぶれです。「このメンバーなら優勝できる」と思ったのは私だけではなかったと思います。

弓道は精神面が的中を大きく左右します。個人の技量と同様、チームの呼吸が合うことが重要です。強化練習では浜松市や静岡市のチームと試合を重ねました。監督は練習試合の設定、会場の確保、控えは準備や段取り等裏方に徹してくれました。大会終了後の旅行計画も手分けして行い、自然と団結力が高まっていきました。

そして大会へ。現地でのおもてなしが心に残ります。総合開会式の小学生との交流、竿燈、マスゲームと実に素晴らしいものでした。秋田市内では町内をあげて竿燈でもてなしてくれました。夜空に浮かぶ竿燈は美しく、迫力がありました。弓道会場では指輪や漆箸の製作体験があり、普段では絶対にできない貴重な体験を楽しみました。また鍋の振舞いには毎回長蛇の列ができていました。

さて交流大会本番。我が静岡県の出番は46番目。全員が普段どおりの力を出して、トップの成績で決勝トーナメントに進出しました。その後4回の対戦を制し、思いどおり優勝することができました。誰も大崩れしなかったことが勝因ですが、信頼しあえたチーム力の賜物だと思います。その夜の祝勝会は知り合いが予約した店で、きりたんぽ鍋と秋田の銘酒でお祝い。実に美味しく何度乾杯をしたことでしょう。

翌日から男鹿半島や角館、秋田内陸縦貫鉄道、弘前城、恐山、大間を経て浅虫温泉。帰宅の途に付いたのは実に8日目でした。健康だからこそ弓が引けます。健康に感謝。共に戦った仲間に感謝。何より8日間もの勝手を許してくれた家族に感謝です。「ねんりんピックって素晴らしいよ。楽しいよ。予選会に行こう！」と皆を誘いたいと思います。

「このメンバーなら優勝できる」の確信どおりの結果に。（後列左端）

呼吸を整え、心を収める。（左）

ダンススポーツ　「富士山」チーム

すぎやまのりよし
杉山典克さん　61歳　●参加歴：1回目

一生の思い出　―ダンス競技人生での目標を達成

真夏を思わせるほどの好天に恵まれ、総合開会式が挙行された。前日は震度5の地震で全国からの選手団を手荒く歓迎してくれたが、開会式は華やかに、感動的に進行し、竿燈まつりの雄大な演目でフィナーレを迎えた。どうしても来てみたかった土地秋田県で、見てみたかった竿燈まつりを体現できて感激した。

ダンススポーツは秋田県立体育館という大きな会場で行われた。ここでも歓迎行事は続き、重要無形民俗文化財の西馬音内盆踊りや、白百合保育園一輪車クラブの華麗でスピーディーな演技でのもてなしを受けた。

競技はラテンの種目別個人戦から始まった。チャチャチャは145組、ルンバは149組のエントリーで1次予選が始まり、チームの仲間たちはドンドン勝ち上がり、スタンダード代表選手までも準決勝に勝ち上がる大健闘で、なんと私たちがチャチャチャで優勝、ルンバで準優勝することができた。全国優勝はダンス競技人生での目標だったので嬉しくて嬉しくて、ねんりんピックという人生最後であろう大会で達成できたことに感無量だった。

午後からスタンダードの個人戦が行われ、ワルツ179組、タンゴ180組の参加で競技が行われた。4次予選を終えた時、すでに20曲を踊っており、これからは体力勝負となるも、ラテン代表の私たちはそろそろお役御免だろうと思っていた。しかし、決勝まで踊ることになり、結果、ワルツ5位、タンゴ6位と、これまた信じられないような好成績を得ることができた。ここまで24曲。インターバルの時間に、おもてなしマッサージを受けて団体戦に備えた。

迎えた団体戦。全国から46チームが参加し、1～3次予選、準決勝、決勝と戦っていく。まずは1次予選だが、最悪なことに脚が吊った‼急ぎマッサージを受け2次予選へ。皆個人戦を頑張り過ぎたのかチーム全体の動きが硬い。監督が用意してくれた富士山のプラカードにタッチしながら、チームが一丸となって踊り応援した。すると皆、回を追うごとに動きが良くなり、決勝進出のコールに熱気は最高潮に達した。これで肩の力が抜け、決勝は皆がのびのびと演技。全国4位と過去最高であろう成績で凱旋することができた。

最後に、お世話いただきました県連盟、市実行委員会、市民の皆様に厚くお礼申し上げます。一生の思い出をありがとうございます。

チーム一丸となり、全国4位の快挙を達成した「富士山チーム」。（右端）

ペアで息のあった演技。チャチャチャでは優勝を掴んだ。（左）

サッカー　「愛知県シニア60」チーム

おくむらまさひこ
奥村昌彦さん　63歳　●参加歴：4回目

多くの喜びと多くの思い出、多くの支えに感謝して

定年退職する前に、先輩からねんりんピックの参加体験談を聞いて、いつかは自分も参加してみたいと、参加資格が得られる日をとても楽しみにしていました。そして「愛知シニア」の仲間になって4年。昨年も愛知県社会福祉協議会開催の「結団式」に出席することができ、担当者から大会参加の詳細を丁寧に教えていただきました。私たち選手団への多岐にわたるご配慮により安心して大会に臨むことができました。

「愛知シニア」は、「広く他地域のサッカー仲間と交流したい。」と願うメンバーが集まったチームで、愛知県シニアOver-60リーグに参加しています。毎年メンバーが入れ替わり、メンバーの特性を生かしたチームづくりがなされます。大会目標は、やはり一番輝く色のメダルです。今回、大会のためのチーム練習は行わず、県内外のシニアチームとの練習試合を3回行いました。しかし、都合により選手全員が揃うことが出来ず、チームとして不安を抱えたまま、ねんりんピック本番を迎えることとなりました。

迎えた大会初日、総合開会式のメインアトラクションとして披露された美しく雄大な竿燈は、今でも強く脳裏に焼き付いています。また、多くのボランティアの方々のおかげで、とても楽しい時間を過ごすことができました。

翌日からの交流大会では、東京都、広島市、沖縄県と対戦しました。強いチームばかりでしたが、メンバー全員の力で3戦全勝することができ、目標の達成と他県のサッカー仲間に愛知のサッカーを伝えることができました。試合は、秋田市八橋運動公園で行いましたが、とても手入れの行き届いたピッチを用意していただき、会場関係者の方々には深く感謝しています。

帰路の途中で行った打ち上げ会では、苦しかったけど楽しかった試合の話題で大いに盛り上がり、時間を忘れて試合の余韻に浸りました。

今回のあきた大会では、忘れられない思い出がたくさんできました。中でも12年ぶりに対戦した沖縄県チームとは、思い出話に花を咲かせ、互いに当時を懐かしむ時間を過ごせたことは、サッカーを続けてきたご褒美をいただいたような気分でした。

このような機会を与えていただいた、大会関係者並びに愛知県社会福祉協議会の方々に深く感謝しています。今年のとやま大会にも参加できるよう一層の精進に努め、これからの人生をサッカーとともに歩んでいきたいと思っています。

総合開会式で披露された竿燈。忘れられない思い出となった。

将棋　「美し国三重」チーム

林　眞市さん　62歳　● 参加歴：３回目

頭脳スポーツの輪の広がりに期待

ねんりんピックにおいて将棋は、文化交流大会に位置付けられています。本来将棋は、頭脳スポーツです。本大会は、ずっと将棋を指してきた者にとって、同等の対戦相手と互角に勝負ができる数少ないイベントであり、明らかに高齢者の生きがいにつながっていると思います。年齢を重ねるごとに脳の筋肉の回転が遅くなり、若い人には勝てなくなってしまうからです。

また、ねんりんピックでは、他のスポーツ競技と同じレベルで取り上げられていることに、本大会の素晴らしさを感じています。これからは、チェス、バックギャモン、テキサスホールデムポーカー等も競技種目となって、頭脳スポーツの輪が広がっていけばいいなぁと思います。

開会式は、とても思い出深いものとなりました。私たちがマラソン等の選手と共に、グラウンドを行進をするのは、やや場違いな感もありますがとても貴重な体験で印象に残るものとなっています。普段は、スタンドから眺めるしかありませんが、逆に見られる側になることは、ドキドキもしますがとても嬉しいものです。

今回、秋田県で開催されるにあたり、地元の方の細やかな心配りをいただきました。また、監督会議における山崎審判長のルール説明は、重箱の隅まで配慮がなされており、とても素晴らしいものでした。一口に「将棋」といっても、持ち時間等によっては別競技に変身することもあります。今大会を機に、ねんりんピックにおける将棋が、ルールの発信源になればいいなと思っています。

競技が行われた大仙市のマスコットキャラクター「まるび」ちゃんと。

最善手を思案中。個人戦ではブロック1位の栄光を掴んだ。(右端)

太極拳　「みえシンフォニー」チーム

山崎八重子（やまさきやえこ）さん　68歳　●参加歴：1回目

スポーツで「未来」が変わる！

初めて「ねんりんピック」という言葉を耳にしたのは4年前、先輩方の集団演武を見た時でした。太極拳は個人演武が一般的なのですが、音楽に合わせて7人の呼吸がぴったりと合い、優雅に演武しているのを見て、とても感激したものでした。そのねんりんピックのあきた大会に「出場しませんか」と声がかかったのですから、夢のようでした。

2016年2月から選手7名、監督、コーチ各1名総勢9名の長い戦いが始まりました。まずは基礎の動作練習から始まり、音楽に合わせたフォーメーション作り、全員の手足の動きが合うまで週に2回ずつ練習を重ねました。ときには辛くなることも言い合いお互いに切磋琢磨しながら……。練習を重ねるごとに仲間意識も高まり絆も深まってきました。不安もありましたが、強く勇気付け、一歩前に推し出してくれたのは、練習期間中に他界した夫の「今できることを精一杯頑張ってこい」の一言でした。

「いざ！　ねんりんピック秋田2017を楽しもう」と、未だ見ぬ秋田へ出発。開会式では地元の「まごころキッズ」との温かい交流をしたり、他競技出場者と交流したり、静岡県の選手から記念のタオルをいただいたりと、アトラクションの素晴らしさに参加者全員感動の連続でした。県民一丸となっての「おもてなし」に感謝の一言です。

交流大会当日皆、緊張で顔が強張っていましたが、会場に入場する時には地元の関係者の方々の大きく鳴り止まない拍手、やんわりした方言に癒されて落ち着きを取り戻すことができました。我が「みえシンフォニー」チームの出番は午後1番でした。全員で、悔いのない演武をしようと、4分に全てをかけました。不思議と落ち着いて客観的に見ている自分がいてびっくりでした。監督から「皆落ち着いていつもどおりにできててよかったよ」と言われ、皆で1年半の練習の達成感を覚え、喜びあいました。そして練習の日々を振り返りながら、すでに次の意欲を言い合いながらババヘラアイスに舌鼓。

今回の太極拳高齢者賞は、90歳の男性とのこと。まだまだ次の機会にと目標がつきません。いつか、三重県で「ねんりんピック」が開催される時は、ぜひお手伝いしたいものです。

「スポーツで「人生」が変わる」「スポーツでこれからの高齢者の「社会」が変わる」「スポーツでこれからの高齢者の「未来」も変わる」――こんなことを強く感じた、あきた大会でした。

試合を終え、自然と笑顔が溢れるチームのメンバー。（前列右端）

ババヘラアイスを食べながら、次の目標を語り合う。（左から2人目）